

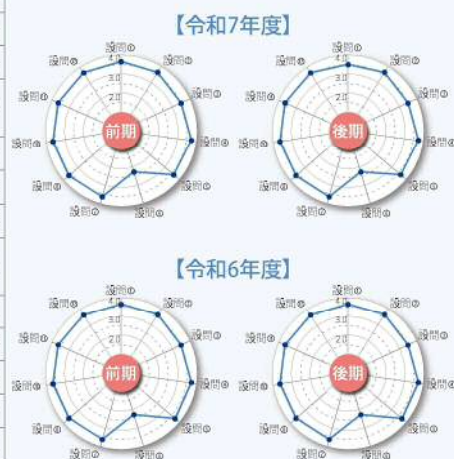
【令和7年度(前期・後期)授業アンケートの実施報告】

教育開発センター長 八房 智顯

表1 アンケートの設問

	令和7年度 前期	令和7年度 後期	令和6年度 前期	令和6年度 後期
■設問① 私は、この授業科目の目的と意義を理解できた。	3.6	3.5	3.6	3.6
■設問② 私は、この授業科目に意欲的に取り組んだ。	3.6	3.6	3.6	3.6
■設問③ 私は、この授業科目の到達目標を達成した。	3.5	3.5	3.5	3.5
■設問④ この授業科目は、授業計画の内容どおり進められていた。授業計画に変更があった場合に、変更点についての説明があった。	3.7	3.7	3.7	3.7
■設問⑤ この授業科目において、事前・事後学習の内容及び指示は適切だった。	3.6	3.6	3.7	3.7
■設問⑥ 私は、この授業科目の事前・事後学習を行った。(レポート作成時間を含む)	2.3	2.3	2.3	2.3
■設問⑦ この授業科目において、到達目標、評価種別及び評価基準について説明があった。	3.6	3.6	3.6	3.6
■設問⑧ この授業科目において、シラバスに記載されている能動的学習の授業手法(ミニッツペーパーなど)を実行していた。	3.6	3.6	3.6	3.6
■設問⑨ この授業科目において、適切なタイミングで理解度の確認を行っていた。	—	—	—	—
■設問⑩ この授業科目において、学生の意見に対するフィードバック(改善)等を実行していた。	3.6	3.6	3.6	3.6
■設問⑪ この授業科目において、授業を妨げる行為(私語・携帯電話等)に対し、適切に対応していた。	3.6	3.6	3.6	3.6
■設問⑫ 私は、総合的に、この授業科目の教え方に満足した。	3.6	3.6	3.6	3.6
■設問⑬ この授業科目において、良かった点を以下の項目から3つまで選んでください。	—	—	—	—
■設問⑭ この授業科目において、改善して欲しい点を以下の項目から3つまで選んでください。	—	—	—	—
■設問⑮ この授業科目において、授業の速度についてはどう感じましたか。	—	—	—	—
■設問⑯ この授業科目において、課題の量についてはどう感じましたか。	—	—	—	—
■設問⑰ この授業科目についての意見がありましたら記入してください。	—	—	—	—

表2 レーダーチャート



■補足

1. アンケート回答の平均は、回答1×4、回答2×3、回答3×2、回答4×1で加重合計し、回答1～4の回答件数合計で除して平均を求めています。
2. 全学平均は、全学部の総数により算出しています。

本学では学修の可視化を図るとともに学生の意見をシラバスに活用することを目的として、Webを利用した授業アンケートを実施している。

表はアンケートの設問であり、それらを以下の5つの観点にまとめて評点の平均を算出して検討した。

「学生の自己評価(設問①、②、③、④)」

「シラバスに基づいた授業実施に対する評価(設問⑤、⑥、⑦、⑧)」

「学生、教員双方の授業実施に対する評価(設問⑨、⑩)」

「授業実施に対する評価(設問⑪、⑫、⑬、⑭、⑮)」

「学生の満足度(設問⑯)」

アンケートは合計16問と設問⑯の自由記述から構成し、設問①～④、⑥～⑯は4段階評価、設問⑤、⑧、⑩は3段階評価で、大きい数字を高い評価としている。なお、設問⑪、⑫は7項目の選択肢から3項目選択することになっている。また、評点については、4段階評価の項目のみ算出している。

●前期(回答者数:のべ21,706人/41,620人、回答率:52.2%)

「学生の自己評価(設問①、②、③、④)」:3.3

「シラバスに基づいた授業実施に対する評価(設問⑤、⑥、⑦、⑧)」:3.7

「学生、教員双方の授業実施に対する評価(設問⑨、⑩)」:3.6

「授業実施に対する評価(設問⑪、⑫、⑬、⑭、⑮)」:3.6

「学生の満足度(設問⑯)」:3.6

●後期(回答者数:のべ16,779人/38,464人、回答率:43.6%)

「学生の自己評価(設問①、②、③、④)」:3.2

「シラバスに基づいた授業実施に対する評価(設問⑤、⑥、⑦、⑧)」:3.7

「学生、教員双方の授業実施に対する評価(設問⑨、⑩)」:3.6

「授業実施に対する評価(設問⑪、⑫、⑬、⑭、⑮)」:3.6

「学生の満足度(設問⑯)」:3.6

以降は令和7年度の授業アンケート結果を2018年(平成30年)から2025年(令和7年)までの過去8年間のデータと比較した。

図1は、設問②「該当授業に意欲的に取り組んだかどうか」の回答割合

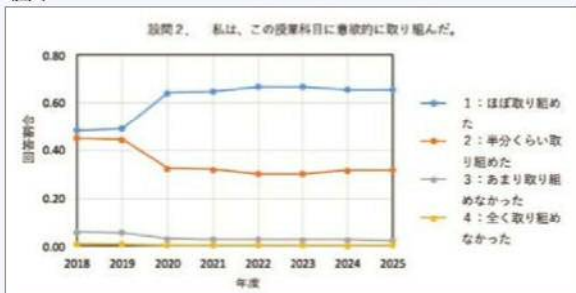
を年度ごとに比較したものである。2020年以降、「1:ほぼ取り組めた」の回答割合が大きく増加し、その後も高い水準を維持している。2022年に完全な対面授業が再開された後もこの傾向に大きな変化はなく、2025年においても同程度の回答割合となっている。これは、オンライン授業への対応を契機として授業方法を見直し、その後も改善した授業運営を継続していることが、学生の学習意欲に好影響を与えているためと考えられる。

図2は、設問③「該当授業科目で良かった点を3つ挙げる」の回答内容を年度ごとに比較したものである。2020年以降、「2:授業の資料」の回答割合が増加し、「4:板書の方法」や「6:特になし」の回答割合が減少している。これは、オンライン授業を契機として、授業資料の電子化や動画教材の導入、PCを活用した授業運営など、授業設計そのものを見直したことによるものと考えられる。これらの取組みは対面授業へ移行した後も継続されており、学生からの高い評価につながっていると考えられる。

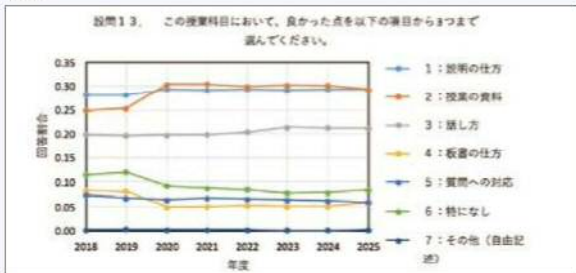
図3および図4は、設問①～⑯の高評価回答割合の経年変化を示したものである。前期・後期ともに、2020年以降はほぼすべての設問で高評価回答割合が増加し、その後も高い水準を維持している。多くの設問が近年ほぼ横ばいで推移している一方、「授業の事前・事後学習」に関する評価である設問⑭は、他の設問とは異なる変化を示している。設問⑭は2020年以降の改善幅が大きく、2025年にはさらに高い評価となった。この要因の一つとして、授業資料の電子化や動画教材、PCの活用を単に授業中の補助として用いるのではなく、授業前後の学習も含めた授業設計へ移行したことが考えられる。

以上より、2020年以降に見られる授業評価の向上は、オンライン授業そのものの効果というよりも、その対応を契機として進めた授業のICT化と授業設計の見直し、現在の対面授業にも定着した結果であると考えられる。今後もこれらの取組みを継続し、学生が授業時間外にも主体的に学習できる環境を整えることで、教育効果の維持・向上を図りたい。

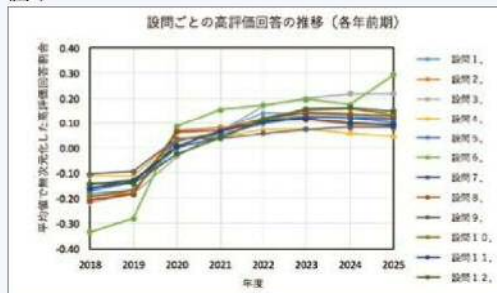
(図1)



(図2)



(図3)



(図4)

